

和泉良太郎 論文内容の要旨

主 論 文

Effects of Approximal Coronal Restorations on the Incidence and Progression of Periodontitis

(隣接面歯冠修復物が歯周炎の発症や進行に与える影響について)

(共著者名 和泉良太郎、新庄文明、池田紀夫、橋本猛央、福田英輝)

掲載予定雑誌名：老年歯科医学 第20巻第4号

発行予定日：2006年3月31日

所属：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻

主任指導教員(代理)：中山浩次 教授

緒 言

本研究の目的は、隣接面を含む歯冠修復物の有無と、歯周疾患の発症や進行との関連を明らかにすることである。また、歯群別の分析をつうじて、隣接面を含む歯冠修復物の有無と、歯周疾患の発症や進行との関連における部位別の特異性を明らかにすることである。

対象と方法

兵庫県、大阪府内の3歯科医院において、初診時に20歳以上、現在歯が20本以上、かつパノラマX線写真を撮影した者を対象とした。各医院それぞれ、平成16年末までの最新の受診者から100名ずつ合計300名を抽出した。そのうち歯冠修復処置と歯槽骨吸収の確認できない者を除外した289人(男性123名、女性166名、平均年齢57.3歳)を分析の対象とした。初診時において、歯周ポケット測定値が記録されている101名については、歯周ポケットの深さにより歯周炎の状態を判定した。また、全ての対象者について初診時に撮影したパノラマX線写真をもとに、第3大臼歯を除く全ての現在歯(6,672本)の歯冠修復状況と、近心側および遠心側の歯槽骨吸収の状況をScheiのスケールを用いて判定した。

結 果

歯周ポケットを測定した101名について歯群別に、隣接面を含む歯冠修復の有無と歯周ポケットの深さとの関係を分析した。前歯と小臼歯においては、歯冠修復を施した面において、初期、中等度、重度の歯周疾患との有意な関連が示された。

パノラマX線写真による歯槽骨の吸収の程度を、歯種別、および隣接面歯冠修復物の有無別にみたところ、初期の歯槽骨吸収については、上顎5近心とすべての

上顎前歯の近遠心、およびすべての下顎小臼歯の近遠心で有意な差がみられた。中等度の歯槽骨吸収については、上顎3遠心、下顎3近心、および下顎7近遠心で有意な差がみられた。重度の歯槽骨吸収については、下顎7遠心と下顎3近遠心、および下顎1遠心で有意な差がみられた。

年齢区分別、歯群別に、隣接面を含む歯冠修復物の有無と歯槽骨吸収の状況を分析した。20～49歳の若年者では、初期の吸収はすべての歯群において、中等度の吸収は上下顎前歯部と上顎大臼歯部において、重度の吸収は下顎の前歯部において有意に多くみられた。50歳以上の中高年者では、中等度の吸収は上下顎の前歯と小臼歯群において有意に多くみられた。65歳以上の高齢者では、隣接面を含む歯冠修復処置と歯槽骨吸収とは、有意な関連がみられる歯群数が最も少なかった。

考 察

隣接面を含む歯冠修復処置を施した歯牙は、処置を施していない歯牙と比較して、歯周疾患の発症あるいは進行がみられる傾向が示された。また、歯周疾患の発症と程度は、歯牙の部位と関連があることが示唆された。すなわち、上顎前歯部と下顎の小臼歯部では初期の歯槽骨吸収と関連が大きく、中等度から重度では小さくなる傾向がみられた。これらの部位における歯周疾患の発症は、隣接面歯冠修復物の存在の他に、その他の要因が影響していることを示唆している。一方、下顎の前歯部と大臼歯部については、隣接面歯冠修復物と歯周疾患の初期症状とは有意な関連がみられず、中等度から重度の歯周疾患と有意な関連がみられた。これらの部位では、隣接面歯冠修復物は歯周疾患の発症への影響が比較的小さいものの、一度発症した歯周疾患を進行させる要因である可能性があるとして示唆される。

年齢区分別の分析では、若年者においては、全ての部位について、隣接面歯冠修復物が初期の歯周疾患の発症に影響することが示唆され、若年者の歯牙に隣接面歯冠修復物を装着する際には、健康な歯周組織であっても、プラークコントロールの強化が必要であることが示唆される。とくに前歯部については、歯周疾患の進行にも影響することが示唆された。また、中高年になるにつれて、隣接面歯冠修復物の歯周疾患への影響が小さく、歯群と特異的な傾向はみられない傾向が示された。これは、中高年になるにつれて、歯周疾患の発症と進行には、年齢的な要因と、隣接面歯冠修復物以外の影響が大きくなることを示唆している。

歯周疾患の発症や進行には、さまざまな要因があり、本研究の結果が示したような隣接面歯冠修復物の有無のみが歯周疾患に影響するというものではないが、少なくとも隣接面歯冠修復物が歯周疾患の発症や進行に影響を持ちうるということは示唆された。したがって、隣接面歯冠修復物は、歯周疾患の発症や進行を予防するために避けることが望ましいといえる。今後は、歯周疾患と関連のあるさまざまな要因を考慮することにより、隣接面歯冠修復物の歯周組織への影響をより明らかにし、影響を受けやすい部位を特定していくことが期待される。